

## エネルギー資源新聞

## 将来の電源について

## 原子力発電のリスク

## 原発再稼働問題

国内に存在する原子力発電所は、東日本大震災後にほとんどが稼働を停止に追い込まれました。また、新しい安全基準を満たすためには、かなり高い基準を設けた結果が、再稼働の遅れにつながる最大の問題です。福島第一原子力発電所では、地震後、津波の影響によって外部電源がカットされ、さらに、最後の要である自家発電装置も機能を停止しました。その結果、福島第一原子力発電所ではメルトダウンが発生し、

分をどこにするかすら未決定であることが、大きな問題となっています。現在は核のゴミの処分を行う場所を探していますが、国内では風評被害などの影響が出るとして立候補する自治体はほとんどありません。

## 核のゴミの問題

国内の原子力発電所から生み出された使用済み核燃料は、現在、それぞれの原子力発電所の燃料プールや青森県六ヶ所村に設置されている再処理工場に大量に溜まっています。六ヶ所村では、溜まり続けている使用済み核燃料をどうすべきか、その明確な行き先が決まっていません。最終処

## 原発立地自治体の悩み

原子力発電所を抱えている地方自治体にとっては、発電所は大きな税収源であることは間違いありません。原子力発電所の固定資産税や、発電所に関連する税金が大きな割合を占めている自治体も、かなりの数です。それだけに、原子力発電所に関する話題がタブー視されることもあります。本当の感情を表に出すことができないという面が大きいのです。原子力発電所がなければ、限界集落になっていたという自治体も存在するからです。原子力発電所があるからこそ、自治体の規模が維持できるという経済効

存在する自治体にとっては大きな税収を得る施設であることから再稼働に関して意見が割れてしまうことが多いです。再稼働すれば核のゴミが生じる。しかし再稼働しなければ税収に大きな穴ができてしまう。自治体と原発は共生するしかないのでしょうか。

## 原発に頼らない電源開発

石油や天然ガス、石炭などの化石燃料に頼った発電は、資源を掘りつくしてしまうと、それ以上利用することができなくなります。それは原子力発電も同じです。ウランも、いつかは掘りつくしてしまうと、地球上か

## 核のゴミの行き着く先

原子力発電が始まって以来、大量に発生した使用済み核燃料の行き着く先は、引き受け手がないどころか、再処理工場に輸送して、再処理を行って、核燃料サイクルをどうにかして実現し

ようとしてきました。青森県六ヶ所村に建設されている再処理工場は、いまだに稼働すらしていません。それどころか、工事完了は何度も延期され続けてきました。実際に再処理工場が完成する正確な予定はいまだに決まっています。仮に決ま

成功すれば、電力会社だけでなく、国からも多額の補助金を受け取ることができ、過疎化が進む自治体にとっては、原子力発電所の誘致に伴う補助金を目的として、誘致活動を行う自治体も存在することもまた事実です。

## 再処理工場の問題

青森県六ヶ所村に存在している再処理工場の完成時期は、いつまでたってもめどが立っていません。完成が遅れていくたびに、使用済み核燃料はたまり続けています。日本は、使用済み核燃料の再処理を行い、MOX燃料を作ろうとしています。先進国の多くは、使用済み核燃料の再処理は危険性が高いとして、使用済み核燃料を最終処分してい

## 再処理をしても問題

使用済み核燃料を再処理しても核のゴミは発生する。その処分先を決めることなく原子力行政を進めてきた政府の対応にも問題が存在すると思われま

たとしても、高レベル放射性廃棄物という問題が存在しています。